

氏名 (法人にあっては名称)	広島アルミニウム工業株式会社
住所	広島県広島市西区横川3丁目6-3
計画期間	令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日
基準年度(*1)	令和 3 年度

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	☒ (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上 (特定事業者)
	☐ (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上 (特定事業者)
	☐ (3)特定事業者以外の事業者

2 事業の概要

事業者の業種	アルミニウム・同合金ダイカスト製造業 (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号：2353)
事業概要	車部品の製造

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3 年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*5)	25,527 t-CO ₂	24,225 t-CO ₂	26,211 t-CO ₂	28,393 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		5.1 %	-2.7 %	-11.2 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*6)		24,225 t-CO ₂	26,211 t-CO ₂	28,393 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		5.1 %	-2.7 %	-11.2 %	%	%
実績に対する 自己評価	コロナ禍が明けて生産数量増加によるエネルギー使用量の増加					

*1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制制度を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。

*2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。

*3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。

*4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素（エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの）、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六フッ化硫黄）の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。

*5 温室効果ガス実排出量とは、上記(*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。

*6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標の達成状況 (※任意記載)

(※原単位の下段は削減量の対基準年度比 $(a-b)/a \times 100$)

事業分類	基準年度の 実績 a	計画期間の 目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3 年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和4～令和6年度 (平均値)
素材鋳造	2.015	1.9122	4.04	4.17		
		5.1 %	-100.5 %	-106.9 %	%	%
素材加工・樹脂	0.93	0.8826	2.06	1.96		
		5.1 %	-121.5 %	-110.8 %	%	%
		%	%	%	%	%
原単位の指標及び 実績に対する 自己評価	部品形態の変動による1ショット当たりのエネルギーロス増加					

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

・エアシリンダから電動シリンダへの置き換えによるエア使用量低減 ・増圧弁廃止によるエア使用量低減 ・コンプレッサの設定圧力見直しによるエア使用量低減 ・LED照明への切り替え ・コンプレッサ更新による能力増強 ・コンプレッサ稼働台数最適化による電力量低減 ・溶解炉補修による燃費向上 ・溶解炉ケーシング更新による放熱量低減 ・真空ポンプ導入による、コンプレッサエアの使用量低減
--

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値(*8)の活用等)

環境分科会開催（1回/2カ月）による改善事例の水平展開

4 その他の取組の実施状況

・2023年4月～2024年3月間再生エネルギー購入30% ・非可動低減活動（故障・不良） ・スプレー塗布量最適化（離型剤・エア）

*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。

*8 環境価値とは、ワセットクレジット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	可部工場
事業所の所在地	広島市安佐北区大林4丁目1-1
事業所の業種	アルミニウム・同合金ダイカスト製造業
事業の概要	アルミニウムによる自動車部品の鋳造自動車部品加工

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	13,563 t-CO ₂	12,871 t-CO ₂	14,679 t-CO ₂	15,930 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		5.1 %	-8.2 %	-17.5 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		12,871 t-CO ₂	14,679 t-CO ₂	15,930 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		5.1 %	-8.2 %	-17.5 %	%	%
実績に対する 自己評価	実排出量は生産量増もあり増えているが、抑制に関する措置は実施しており、令和4年度と同等の低減効果となっている。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

1. 蛍光灯LED化展開 2. コンプレッサー更新による能力増強 3. コンプレッサー稼働台数最適化による電力量低減 4. 溶解炉補修による燃費向上 5. 溶解炉ケーシング更新による放熱量低減
--

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況（環境価値の活用等）

特になし

2 その他の取組の実施状況

・非可動低減活動（故障・不良） ・スプレー塗布量最適化（離型剤・エア－）

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	白木工場
事業所の所在地	広島市安佐北区白木町秋山753-3
事業所の業種	アルミニウム・同合金ダイカスト製造業
事業の概要	アルミニウムによる自動車部品

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下限は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	7,518 t-CO ₂	7,135 t-CO ₂	7,299 t-CO ₂	7,876 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		5.1 %	2.9 %	-4.8 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		7,135 t-CO ₂	7,299 t-CO ₂	7,876 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		5.1 %	2.9 %	-4.8 %	%	%
実績に対する 自己評価	新設ラインの生産増により、電気使用量が増加。それに伴い二酸化炭素排出量も増加している。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

- エアコンプレッサの負荷低減による電気使用量の抑制措置
- ・設備稼働状況に合わせたコンプレッサ稼働台数管理を強化。
 - ・真空ポンプ導入による、コンプレッサエアの使用量低減

- 電気事業者から非化石エネルギーの購入

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況（環境価値の活用等）

なし

2 その他の取組の実施状況

ISO14001の取組継続

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	安佐工場
事業所の所在地	広島市安佐北区亀山9丁目34-1
事業所の業種	アルミニウム・同合金ダイカスト製造業
事業の概要	自動車部品加工

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和 3 年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	3,681 t-CO ₂	3,383 t-CO ₂	4,014 t-CO ₂	4,355 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		8.1 %	-9.0 %	-18.3 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		3,383 t-CO ₂	4,014 t-CO ₂	4,355 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		8.1 %	-9.0 %	-18.3 %	%	%
実績に対する 自己評価	コロナ及び半導体不足からの回復、新規製品の受注などにより基準年度よりも電力使用量が増加した事により排出量も増加した					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

・エアシリンダから電動シリンダへの置き換えによるエア使用量低減 ・増圧弁廃止によるエア使用量低減 ・コンプレッサーの設定圧力見直しによるエア使用量低減 ・LED照明への切り替え
--

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況（環境価値の活用等）

特になし

2 その他の取組の実施状況

・ISO14001活動の継続 ・1ヶ月に1回の環境勉強会の実施 ・2ヶ月に1回の環境分科会の実施 ・省エネ技術、製品に関する情報収集
--